

# 美術工芸館 Newsletter

東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館

Tohoku Fukushi University  
Serizawa Keisuke Art and Craft Museum  
ニュースレター 2026年3月 Vol.9

Report  
01

## 学園創立150周年記念 I 「<sup>しょうごん</sup>莊嚴の世界 芹沢銈介」展 国見キャンパスツアーに41名が参加

学園創立150周年記念 I 「<sup>しょうごん</sup>莊嚴の世界 芹沢銈介」(2025年9月16日～2026年1月30日)の関連事業として、国見キャンパスツアーを実施しました。このイベントは、法堂や坐禅堂の見学を通じ、本学に受け継がれる曹洞宗や禅の教えを体感いただけるよう企画されたものです。当日は天候に恵まれ、10月24日と11月8日の2日間で計41名の方が参加されました。

参加者一行がまず向かったのは3号館隣にある法堂。堂内に安置されている一仏<sup>いちぶつ</sup>両祖像<sup>りょうそぞう</sup>を前に、門脇佳代子先生(教育学部教育学科准教授)から、本学の成り立ちや法堂及び坐禅堂の仏像に関して講話がありました。また今回は特別に、両祖像の周囲を一巡しながら間近で拝観する機会に恵まれ、それぞれが熱心な眼差しで鑑賞していました。

続けて佐藤泰伸先生(仏教専修科講師)が坐禅の心得や作法を説かれた後、一行は坐禅堂へ。胸の前で左手の親指を内にして握り、右の手のひらで覆う<sup>しやしゅ</sup>「叉手」で<sup>しょうそうもんじゅ ぼさつ</sup>「聖僧文殊菩薩坐像」の前では合掌で頭を下げ(合<sup>がっ</sup>掌低頭)、それぞれが坐る位置へと向かいました。約10分間の坐禅中、堂内は静ひつな空気に包まれました。



法堂拝観の様子

Topics  
01

## 眺めのいい休憩室でコーヒータイムを

国見キャンパスの工芸館内に「休憩室」があるのをご存じでしょうか。

館内のイメージにあわせた民芸調の家具で、仙台市街の眺望を楽しみながらゆっくり過ごせる落ち着いた空間です。室内にはドリンクディスプレイ（自販機）が設置されており、来館者、そして学生・教職員も気軽にご利用いただけます。

料金は、 一般の方 200円  
学生・教職員 100円（割引料金）

です。受付に声をかけてください。

この休憩室では、各自お好きな飲み物をセルフで淹れて、ご利用いただいています。さまざまな陶器のカップを準備していますので、好みのものやその日の気分でチョイスするのも楽しいですよ。

展示室と隣り合わせなので、「食べ物は持ち込まない」「ドリンクは展示室には持ち込まない」など、使い方にはルールがありますが、のんびり休憩したいとき、お客様が来て少人数でお話したいとき、コーヒーを飲みたいときなど…、目的にあわせてお使いください。

また、展示室内には、テーブル席も設置されているので、作品に囲まれながら静かに勉強している学生の姿も見られます。

利用できるのは、開館期間中に限られますが、展覧会を見る目的以外にも、工芸館に気軽に足を運んでくださいね。



News  
01

## 学園創立150周年記念 ミュージアムショップ新商品のご紹介

学園創立150周年を記念し、東北福祉大学の名入り記念グッズが新たに加われました。モチーフには当館所蔵の芹沢銈介作品から、縁起の良い「まねき猫」と「福の字（梅竹文様）」が選ばれました。のれん、風呂敷、卓布、小型額、コースターなどが揃っています。ここでしか手に入らない本学オリジナルです。

教職員の皆さまには贈り物やお土産品として、また、学生の皆さまには卒業や節目の記念の品としてもおすすめです。ぜひショップで手にとってご覧ください。



Report  
02

## ミュージアムユニバースに本学学生と参加！



2025年12月20日（土）・21日（日）の2日間、せんだいメディアテーク1階オープンスクエアで、仙台市内のミュージアムが集い、各館の魅力を発信するイベント「SMMA ミュージアムユニバース」が開催されました。

展示ブースでは、本学の学園創立150周年や当館の展覧会を紹介しました。また、21日には体験イベントにも参加。型紙を使って模様を染めるワークショップで、はがきサイズの2026年版ミニカレンダー作りを行いました。体験をサポートした本学学生の親切で分かりやすい指導は大変好評で、120人分の材料は予定時間を待たずになくなり、盛況のうちに終了しました。

Topics  
02

収蔵品紹介 いろきれおきもんしまもめん い  
色裂置文縞木綿衣

芹沢銈介の審美眼によって集められた収蔵品の中でも、衣装、木工、へんそ編組など幅広い分野を網羅するアイヌ文化資料は、近年高く評価されています。ここで紹介する《色裂置文縞木綿衣》も芹沢コレクションのひとつ。本州から舶来した木綿衣に、アイヌ衣装独特の「きりふせ切伏」という加飾技法で模様が施された晴れ着です。こうした模様は単なる装飾ではなく、保温や魔除けのために伝承されてきたものです。繊細な刺繍の技術、そして大胆なデザイン構成を、ぜひ展示室でご堪能ください。



※下記次回展示に出品

News  
02

次回展覧会は

「アイヌの工藝－芹沢銈介と長介の収集－」

芹沢銈介とその子息である考古学者・長介が収集したアイヌ資料より、優美なデザイン性をもつ染織、木工品約80点を展示します。また、併設展として、北海道・東北の風景や各地の郷土玩具などをモチーフにした芹沢作品を紹介します。どうぞお越しください。

企画展「アイヌの工藝－芹沢銈介と長介の収集－」

会 期：2026年4月14日（火）～8月1日（土）

入場料：一般 500円、学生・教職員は無料